家庭菜園 Q&A

問題解決!

南部営農センター
園芸課
検校 哲也

Q1 夏の暑い時期の水やりで気をつけることは?

A1 朝、起きたら畑へ水やりに、これが基本です。

葉が光を浴びると光合成が活発になり水を欲しがります。根から十分に吸えるよう、たっぷり水やりする必要があります。日中の暑いときに水をやると、土が熱いので水もすぐに熱くなります。よくありません。夜になると、光合成をやめて、葉からの蒸散量は減ります。また、夕方の水やりは過湿になるおそれがあります。

ここで、植物の気孔(葉の裏にある口)の話をしましょう。

気孔は、呼吸と蒸散のための穴です。光合成のために二酸化炭素を取り込むと同時に呼吸もしています。光が当たると気孔が開くわけですが、高温になると体温を下げるため水を吸って気孔から蒸散します。ところが、乾燥して水分がなくなると貴重な水を逃がしたくないので気孔を閉めます。

つまり、体温を下げたい、水分を失いたくない、気孔の開閉にせめぎあいが発生します。暑くて乾いた厳しい夏になると、植物は生理障害を起こして、最悪、枯れてしまいます。

夏の作物のトウモロコシやサトウキビは、高温乾燥下でも光合成を続けられる能力を持つ植物で、C4植物と呼ばれています。サボテンやパイナップルはCAM植物と呼ばれ、涼しい夜に気孔を開けて二酸化炭素を取り込み、昼は気孔を閉じることで水分の損失を最小限に抑えています。

さて、畑が乾いて暑いときに葉水をかけるとどうなるか。

水分がないので葉の気孔は閉じています。葉に水がかかると気孔が開きます。土に十分な水があればよいのですが、葉まで水が供給されないと、しおれることになります。葉水だけでは気孔が開いて、かえって植物を弱らせることになります。朝、たっぷり水やりしてください。

Q2 多肉植物がしおれてしまいました。原因は?

A2 水やりが多い。風通しが悪い。日が当たってない。この3点のいずれかに思い当たるのでは。乾燥気味に育てるのがコツです。

実は、多肉植物が苦手なのは夏です。サボテンのイメージで夏が似合いそうですが、湿度の高い日本の夏は乾燥地帯出身の多肉植物にとって嫌いな季節でしょう。夏の蒸し暑さが苦手なのは人間も同じです。風通しを良くしましょう。水やりは2週間に一度で十分です。葉にしわが寄るぐらいやせても、秋になるとぷっくりします。水やりは上からかけずに鉢のふちから注ぎます。葉と葉のすき間に水がたまると、腐りの原因になります。

花の少ない夏、多肉植物を楽しんでください。

ハオルチア

強い日差しに弱いので室内で楽しみます。

エケベリア

高温多湿に弱いので夏は風通しのよい半日陰においてください。

オンライン農業塾はこちら
動画はコチラ

管内の病害虫情報はこちら

家庭菜園情報はこちら